

白浜レスキューネットワーク通信 2～5月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

2月1日～2月28日

保護件数 3件(男性1名、女性2名)

自立件数 3件(男性3名)

帰宅件数 1件(男性1名)

共同生活者数 13人

(男性6人、女性6人、小学生1人)

○18日、男性を保護。数日滞在する中で、出てきた町に戻る決心をし帰って行った。

○19日、まちなかキッチンで頑張っていた男性が、もう一度派遣の仕事をしながらか郷で頑張りたいと再就職を果たし、帰って行った。

○20日、まちなかキッチンでがんばっていた男性が、ハローワークで工場勤務の仕事を見つけ再就職を果たし、工場の寮へ引っ越して行った。

○21日、警備の仕事をしながらか生活再建資金をためていた男性が、もう一度自宅に戻って頑張りたいと、転職し、自宅へ帰って行った。

○27日、女性を保護。夜中に家を飛び出して来たとのこと。家族と連絡を取りしばらく滞在することに。

○28日、女性を保護。コロナ渦にあって、仕事がなく、精神的にもしんどくなり、引きこもって一年ほどたっているとのこと。家族と連絡を取りこちらでやりなおすことに。

3月1日～3月31日

保護件数 5件(男性4人、女性1人)

自立件数 0件

帰宅件数 4件(男性3名、女性2人)

共同生活者数 13人

(男性7人、女性5人、小学生1人)

○7日、男性を保護。出て来たアパートの大家さんと連絡が取れ、「帰っておいで」と励まさ

れ帰ることに。

○9日、男性を保護。メールで相談を受けていたが、白浜でやり直したいと、住んでいるアパートはそのまま、生活保護もそのままの状態であつた。出て来た先の行政とも連絡を取りつつ今後どうするか話し合っていくことに。

○10日、男性を保護。帰る場所があり、受け入れてくれる家族もあり、帰ることになった。

○11日、女性を保護。家族や友人から本人の電話に帰って来てと連絡が入り、翌日帰ることになった。

○25日、男性を保護。生活保護を受給していること、今回死ぬしかないと思った借金の悩みに解決が見えたことを受けて、帰って頑張ろうということになった。

○4月に保護した女性が家に帰った。

○滞在している小学生が小学校を卒業した。

4月1日～4月30日

保護件数 0件

帰宅者数 1名(男性1名)

共同生活者数 12人

(男性6人、女性5人、中学生1名)

○1日、先月から滞在している男性が、受給していた生活保護のことやアパートのことなどを現地のケースワーカーと話をするために帰った。

○先月小学校を卒業した男子が中学校へ入学した。

5月1日～5月31日

保護件数 3件

(男性2名、女性1名)

自立件数 1件

帰宅件数 3 件(男性 2 人、女性 1 人)

共同生活者数 11 人

(男性 5 名、女性 5 名、中学生 1 名)

○5 日、男性を保護。家族のもとに帰ってやり直すことに。

○9 日、女性を保護。朝のジロウ(愛犬)との散歩の最中のことだった。家族のもとに帰った。

○12 日、80 代男性が、近くの老人ホームへ移って行った。

○17 日、男性を保護。しばらく滞在して、今後のことを考えていくことに。

○25 日、親子(父、息子)が相談のために訪ねて来た。仕事が続かない息子さんをどうにかしたいとのことだった。一度帰って、準備して、白浜でやり直すことに。

生活自立支援活動

○5 月に老人ホームへ移った男性は、要介護 5 となり、年金と生活保護で施設入所することができた。

○まちなかキッチンで働く 40 代男性は、毎年 4 月から 6 月にかけて調子を崩す。今年もうつ症状が出ている。メンタルクリニックに通い、薬を服用しながら、ペースを落として働いている。

○まちなかキッチンで働く 30 代男性は、不満やストレス、疲れをため込んで爆発するのをやめようと努力している。この期間にも激しい爆発があり、本人も反省している。ためないためには小出しにする必要があり、穏やかに話せるうちに話すことだと実践している。

○新聞配達をしている 50 代男性は、まちなかキッチンでも働いている。最近、前向きな言動が増えた。すぐにやめたくなり続けることが苦手なので、とにかく続けさせることに力を入れている。

○通信高校 3 年の男性は、3 月 13 日に卒業し、実家へ帰った。卒業式にはご両親や妹も来て門出を祝うことができた。5 月には仕事が休みだったことから、遊びに来てくれた。

○まちなか惣菜で働く 50 代女性は、毎日が楽しいといってくれるようになった。

○まちなかキッチンとコンビニを掛けもちしている 20 代女性は、変わらず安定している。

○50 代男性は、まちなかキッチンに働きながら、出て来たアパートの滞納分の家賃や作った借金の返済をしている。紀南こころの医療センターに通院しながら薬を服用しながらがんばっている。

○昨年 10 月に保護した女性は、借金の返済を頑張っている。4 月からは正式にまちなかキッチンに就職しあと少し残っている借金返済に取り組みたい。

○50 代女性は、まちなかキッチンの仕事をしながら、精神科に通いながら自分の課題に取り組んでいる。

○30 代男性は、農作業などしながら生活改善を行ってきた。梅取りの短期のアルバイトを始めた。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

(株)ダイエー傘下のスーパー各店舗で、フードドライブの実施期間が拡大され、専用回収ボックスが毎日常設されることになった。この地域ではグルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンターで行われる。

・コペルくん活動

3 月まで来ていた子どもたちが、小学校に隣接する学童保育に通うようになった。現在は不定期に来る子供に対応しながら続けている。

・夜コペ

学生寮に滞在している男子生徒が中学生になったので、テスト期間に開催することに。テスト前 2 週間ほどを、毎晩 2 時間自主勉強を見守っている。

・少年少女漂流隊

第一小学校のクラブ活動において、副理事長が講師となり、はじめ人間自然塾の出前版を行っている。今年度の第 1 回目は 6 月の予定。

・農業

富田のハウスで作っている小松菜、ほうれん

草は、まちなかキッチン、Aコープあぜみちへ出荷している。

まちなかキッチンの裏山で作っている野菜は、まちなかキッチンへ出荷するようになった。

農業の活動は、収益よりも、共同生活に新たに加わった人たちが、白浜の生活に慣れ、人と関わり、関係を作っていく場として機能させたいところだ。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

3月13日(日)午後から卒業式を行なった。男子1名母児に卒業し、就職先へと旅立った。

4月11日(月)午後から入学式を行なった。男子2名、女子1名の計3名が入学した。

月曜日から金曜日まで、毎日、午後から授業を行っている。

スクーリング会場としては、廃校になっている椿小学校をその都度お借りすることになっている。

英語、数学、理科、社会、国語と各教科に先生を迎えてご指導いただいている。

【3月13日に行われた卒業式でのSHIP代表祝辞】

北村領矢君、ご卒業おめでとうございます。

二年前、親元を離れて、学費も生活費も自分で働きながら稼いでがんばりたいと決断したときの気持ちを覚えていますか？あの時、考えていたことを、こうして卒業を迎えた今、振り返ってみてどう思いますか？

この二年間、午前中はまちなかキッチンで働き、午後から夜にかけては授業という生活を続けられたのは、産み育ててくれたご両親のおかげで、体が丈夫で体力があったことが一番の要因です。そして、多くの人の励ましや助けをいただいて、先生方の指導の下で、最初のがんばりたいとの思いを持ち続けることができたからこそだと思います。本当によくがんばったと思います。

季節労働としては谷本農園での梅取りの仕事も二年連続お世話になりました。よく働いてくれたと評価してもらえたことは本当にうれしいことでした。また、音楽専攻として音楽に打ち込めたことは、これからの人生において、音

楽が喜びや楽しみを生み出す宝となるでしょう。

スマホ依存だった生活から、一時期、スマホなしで生活することになった経験や、自分を認めてほしい、評価してほしい、人に嫌われたくない、良く思われたい、しかしうまくいかないという経験は、一回りも二回りも精神的に成長させたのではないのでしょうか？私は、この二年間、絶えず「小さなことに忠実であれ」「自分を推薦する者にならないで、主に推薦される者になること」を求めてきました。最近では寮生活と一緒に暮らす小学生のために「良き模範」になることを求め、自分のことだけではなく後輩に対する責任を持つことを求めてきました。未熟ながらも、よく面倒を見、責任を果たそうとする姿を見せてもらいました。そして、今や、体験授業を通して、あなたの授業を受ける姿を見て、この学校で学びたいと思う後輩が出てきました。この二年間の成長を見て、自信をもって送り出したいと思います。

さて、私たち明誠高等学校和歌山白浜SHIPは、北村君の入学と共に始まりました。そして北村君の成長と共に成長してきました。そして今、北村君を初めての卒業生として、社会へ送り出そうとしています。ここで一つ約束をしませんか？私たちはこれから、互いに恥じない生き方を志すという約束です。私たち学校のこれからの働きが北村君の誇りとなり、北村君の今後の活躍が私たちの誇りとなるように、互いに責任を持ちましょう。互いを大切に思う気持ちは、どんな状況下でも私たちを奮い立たせて強くしてくれることでしょう。明誠高等学校和歌山白浜SHIPの一期生として、自分の活躍がこれからの学校の評価を決めるという自負をもって頑張ってください。私たちも負けずに頑張ります。

最後になりましたが、今日、お越しくくださった皆様、いつもわが校の教育活動にご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。おかげさまで第一期生を送り出すことができました。来年度も新入生を迎えることが決まっています。この白浜の地において、ますます高校教育を充実させていきたいと思っています。引き続きご支援

いただけますようよろしくお願い致します。
卒業する北村君をはじめ、ご家族の皆様、また関係者の皆様の上に、神様の豊かな祝福を祈り、祝辞とさせていただきます。

【4月11日に行われた入学式でのSIHP代表式辞】
新入生の皆さん、明誠高等学校和歌山白浜SHIPへのご入学、おめでとうございます。和歌山白浜SHIPを代表して、皆さんを心から歓迎いたします。また、新入生のご家族、ご関係者の皆さまにも、今日の良き日を迎えられること、心よりお喜び申し上げます。

皆さんが入学する明誠高等学校和歌山白浜SHIPは開校3年目という新しい学校です。伝統や実績はまだこれからです。しかし、見かたを変えれば、これから歴史を作っていく希望に満ちた学校です。思いがあれば、気持ちがあれば、願いがあれば、夢や希望があれば、やる気を起こせば、何にでも挑戦できる学校です。私たちと皆さんで未来への可能性を広げたいと思います。

そのために、私たちは、皆さんと3つのことに取り組みたいと考えています。

一つは、基礎学力を身につけることです。これは「教えられること」がとても大事です。最近では、自分の知りたいことを学ぶことができ、教えてもらう内容を自分で選ぶことができるようになってきました。しかし、基礎学力とは、自分が選ぶものではなく、知りたいかどうかでもなく、最低限学んでおきたいことであり、知っておかなければならないこと、教えられ身につけていなければなりません。何を始めるにしても基本的な学力がなければ前に進めません。しっかり教えられ、学んでください。

二つ目は、基礎体力を身につけることです。これは、早寝早起きと三食のバランスのいい食事と適度な運動から出来上がっていくものです。寮生活をする生徒はもちろん、通学する生徒も、ぜひ心がけてほしいことです。実は、学力以上に、健康や基礎体力が何をするにも重要です。体が丈夫なだけでできることが広がります。何かに取り組む集中力は気力や体力が問われます。なので、規則正しい生活と食生活に取り組

み、適度な運動を心がけ、基礎体力を身につけていきましょう。

三つ目は、社会性を身につけることです。人は、社会を形成して生きていくものです。人との関わりの中で、自分の存在価値や意義、生きがいや役割、責任感を持つことができるようになります。人と関わりながら生きていく力が人生の幸せを感じる要素につながるのです。だから、この先の人生を切り開いていくために、どうしても必要な力だと言えます。高校生活を通して、多くの人と関わり社会と関わり社会性を身につけていきましょう。

ぜひ、この3つに取り組み、皆さんの未来への可能性を広げていく高校生活となるようにしましょう。

私たち教職員全員で、皆さんを励まし、教えていきたいと思えます。

さて、いつも私たちの活動にご協力くださっている皆様、変わらぬご支援をありがとうございます。本日も、こうして入学式にご臨席賜りましたことは、この上ない喜びであり励ましです。これからも私たちは、この学校教育を通して、この地域において、この地域の必要に仕えていきたいと考えています。ぜひ、引き続き、ご理解とご支援をよろしくお願い致します。

新入生のこれからの高校生活が祝福されますように祈り努力することを誓い式辞とさせていただきます。